

評価委員会報告書

教育GP評価委員会は、本キャンパスが文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」選定取組みである「eポートフォリオによる自己教育力の育成」を審査・評価し、この取組みを適切かつ効果的に推進するために、今般、次のとおり報告書を取りまとめた。

また、取組みが終了する次年度に向けて「看護教育支援センター」を設置し、取組みを継続することの提案を行った。

評価委員会 開催日時

平成21年3月14日 13:30～15:30

平成22年11月4日 9:30～11:30

次年度に向けて



出雲キャンパスに「看護教育支援センター」を設置し、以下の支援を行うことで、看護教育に関するエンロールメント・マネジメントの取組みを行う。

- ✓学生の[教育]支援(教育GP, OSCE, など)
- ✓学生の[進路]支援(キャリアセンター)
- ✓卒業生や臨床等の[リカレント]支援
(地域連携推進センターのリカレント教育, など)
- ✓大学と施設, 機関, 団体等との連携を支援
(看護学科のユニフィケーション, など)
- ✓看護教育の[連携]支援
(島根看護教育研究会の事務局, など)

－ 見 解 －

この取組みは、今の時代に適した看護基礎教育に求められる教育方法を実現するものである。また、自己教育力についての評価は今後に期待されるところであるが、“だんだんeポートフォリオ”を活用した学生の満足度は高い。成果は研究として評価・公表されており、充分合格点に達しており、それプラスアルファのものがあつたと評価できる。

今後の課題として、①eポートフォリオの限界と可能性を見極めつつ、事業を発展させること、②eポートフォリオは学生達の時宜に適した良いツールではあるが、教員がポートフォリオを超えるものではないことを理解して活用することで、免許取得関係の教育において効果をなし得ること、③eポートフォリオを教育に位置づけると、教員は限られた時間をどのように使うか再度確認し、自己評価のツールとして活用するための指導も継続すること、④GP申請上の目的は「eポートフォリオによる自己教育力の育成」と専一的に絞られているが、このポートフォリオの役割はこれだけではないと考えられることから、それらを発見していくこと。⑤同窓会とも連携し、病院のラダーや新任研修などの卒後教育につなげて活用すること、が考えられる。

設置を提案された看護支援センターは、これから先、学生にとっても、教員にとっても、学外関係者にとっても必要不可欠で、上記の課題を解決するためにも非常に重要であり、看護支援センターが果すべき役割は大きい。

平成 23 年 3 月

評価委員（五十音順）

座長 寺崎 昌男 立教学院本部調査役（東京大学名誉教授、桜美林大学名誉教授）

内藤 富夫 放送大学島根学習センター所長（島根大学名誉教授）

早川 泰 元・島根県立出雲高等学校長

舟島なをみ 千葉大学大学院看護学部研究科教授

松尾 英子 島根県立中央病院看護局長